

『時事直言』 No.1763 2025 年 10 月 6 日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](#)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t_masuda2019/](#)



時事評論家 増田俊男

早苗よ、日本のトランプになりたいなら成れ！

私が無料インターネット放送(増田チャンネル)で、文春スキャンダルに対して言い訳をしたり、逃げるようでは親父(純一郎)や田中角栄のような大物にはなれないと言った通り小物の進次郎は大物指向の早苗に敗れた。

親父(純一郎)なら文春の記者に、「おいお前、選挙の前に俺の知名度を上げてくれてありがとうよ、中々気の利いたことを書くじゃねーか。今度俺は総裁になるから、なんなら俺のかばん持ちでもやらねーか」、くらいのことを言っていただろう。

進次郎から林が奪った票と麻生派が早苗支持を決めたので早苗が勝てた自民党総裁決戦投票であった。

進次郎はトランプの敵であるディープステートのブレーンであるコロンビア大学出であるばかりか反トランプ色の強い CSIS(戦略国際問題研究所)の研究員であったからトランプは進次郎を好まない。

トランプは男に強く、女に弱い。

だから日本にとって恐ろしいトランプには早苗の方が向いている。

早苗は日本のトランプを目指しているようだ。

10 月 4 日の記者会見で、「金融政策は政府の責任」と言い、デフレ脱却は通貨の価値を下げることによる小手先ではなく賃金上昇と積極財政による需要増大化に依らねばならないと言う。

2013 年 4 月 13 日黒田総裁が異次元金融制裁を発表した時私が本誌に書いた言葉と同じ正論である。

早苗は「今時金利を上げるなんて日銀はアホや、デフレに逆戻りする」と言ったため批判を受けたが、当時私は高市発言を正論だと述べた。

日本は供給過剰のデフレ体質だから当然の発言だ。

トランプは FRB(日銀と同じくアメリカの中央銀行)を政権の責任下に置くため FRB 人事に干渉しているが、日本はアメリカや他の先進国と異なり政府が中央銀行(日銀)の 55%の株式を所有しているから、憲法が保証する日銀の独立制が存在しても日銀は政府には逆らえない。

当然早苗の中央銀行支配指向には批判が出てくるだろう。



ワーキングバランスを捨てて、働いて、働いて、を 5 回繰り返し、馬車馬のように働くと言って強い意気込みを見せたが、トップに立つ者は上げ足をとられるもの。

働き方改革もあれば過労死問題もある中、勢いの強さの表現の仕方もまだ慣れてなく、トランプとよく似ている。

時間が経つに従って「ボロ」が出てきて日夜批判に晒されて小物の進次郎のように言い訳をするようになったら早苗が早苗でなくなってしまう。

せっかく誕生した大物指向を失わない為にも出来るだけ早く組閣をして、出来るだけ早く衆院解散すべきである。

自民党票を奪った国民民主や参政党との連立を考えるより、解散総選挙で「早苗旋風」を起こし、奪われた票を取り返すのが先だろう。

「日本の為に死んでもいい」と誓う候補を既存議員と外部から結集、役に立たないばかりか邪魔になる議員には外部から刺客を送り込み、早苗に忠誠を誓う議員だけが当選出来るような選挙戦略を立てるべきだ。

トランプのようにやりたいことを強引に実行するには政策を同じくする党と連立を組むような消極的な考えを捨て、早苗族一色の自民絶対多数政権を目指すべきではないか。

せっかく暴れ馬トランプと対峙できそうな、サッチャーならぬ「鉄の女」が日本に登場したのだから、。

※小冊子 Vol.152 大好評発売中！お申込みは <https://www.musrjec.com/> から

大好評発売中！増田俊男の小冊子 Vol.152

『戦後 80 年のアメリカと日本』

現在増田俊男の小冊子 Vol. 152 は**大好評発売中**です。

内容は、**＊戦後 80 年の歴史に終止符を打つアメリカ** ＊トランプと習近平の米中冷戦：子供と大人の喧嘩 ＊第三次世界大戦と新しい世界秩序：習近平の腹の内 ＊アメリカがイギリスになる時：ドルがローカル通貨になる時 ＊日本は「待てば海路の日和かな」：何もしない最良戦略 ＊日本人は恵まれた民族です。価格は、**1冊 5,800 円(送料別)**。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U. S. リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313、HP：<http://chokugen.com/>）まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313）までお知らせ下さい。